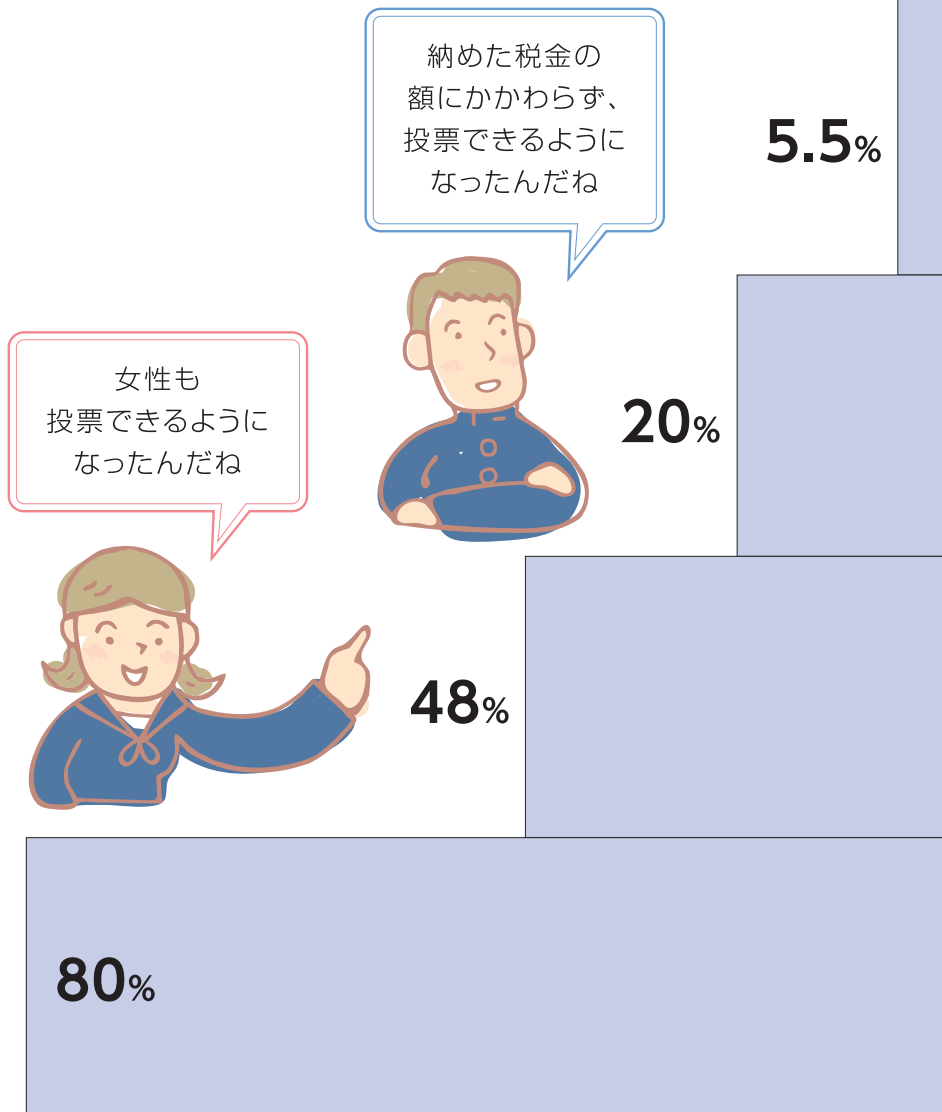


# 18歳選挙権までの長い道のり

明治23年(1890年)に初めて実施された第1回衆議院議員総選挙のとき、有権者は全人口のわずか1.1%に過ぎませんでした。多くの国民による普通選挙権獲得のための運動や女性参政権獲得のための運動があり、先人の努力によって、長い歴史を経て選挙権が広げられてきたのです。



衆議院議員の選挙権の うつりかわり	
<b>明治22年</b> (1889年)	年齢満25歳以上 <b>男性</b> 直接国税15円以上の納税者
<b>明治33年</b> (1900年)	年齢満25歳以上 <b>男性</b> 直接国税10円以上の納税者
<b>大正8年</b> (1919年)	年齢満25歳以上 <b>男性</b> 直接国税3円以上の納税者
<b>大正14年</b> (1925年)	年齢満25歳以上 <b>男性</b> (納税要件廃止)
<b>昭和20年</b> (1945年)	年齢満20歳以上 <b>男性・女性</b>
<b>平成27年</b> (2015年) <sup>※</sup>	年齢満18歳以上 <b>男性・女性</b>

※法改正成立時点